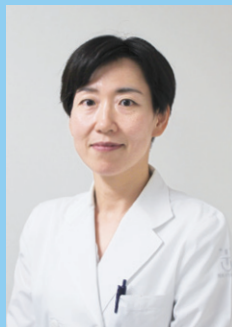


## 特集

## 涙道閉塞

涙目や目やにで悩んでいませんか？



■説明は  
眼科 副診療科長  
**四宮 加容**  
(しのみや かよ)

■お問い合わせ先  
眼科外来  
Tel : 088-633-7161

患者さんへの  
メッセージ

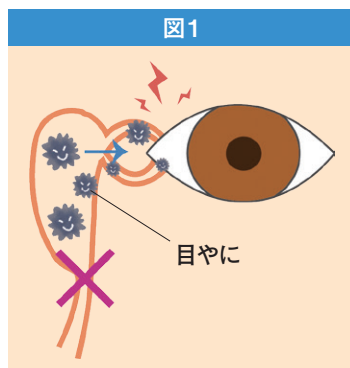
涙目や目やににお困りの場合、涙道閉塞の可能性があります。治療すれば改善が期待できますので、まずはかかりつけの眼科にご相談ください。

## 涙道閉塞とは

人間にとって重要な感覚器官のひとつである眼球。その表面は常に涙によって守られています。涙は、まぶたにある涙腺から分泌され、目の表面を流れて目頭付近にある涙点から涙道という管を通して鼻へと流れていきます。この涙道は「涙の下水道」とも言える器官で、ここが何らかの原因で詰まってしまうことを「涙道閉塞」と呼びます。中高年の女性に多く発症しますが、詳しい原因は分かっていません。また、抗がん剤の副作用で涙道閉塞が起こる場合もあります。

## 涙道閉塞の症状

涙道閉塞のうち、涙囊の奥にある鼻涙管という部分が詰まることを「鼻涙管閉塞」(図1)と言います。鼻涙管閉塞が原因となり、涙囊の中で細菌感染が起こった状態を「慢性涙囊炎」と呼びます。慢性涙囊炎では痛みや腫れは起こりませんが、常に涙目になったり、目やにが多く出たり、不快な症状が続きます。そこから、涙囊の中の細菌感染が悪化して「急性涙囊炎」となり、目や顔が赤く腫れたり、激しい痛みを伴ったりします。涙囊より近い部分が詰まる「涙小管閉塞」では、涙目が主な症状です。



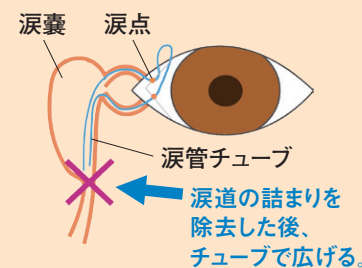
## 涙道閉塞の治療

痛みを伴う急性涙囊炎に罹患した患者さんには、抗菌薬の点滴や内服治療を行います。これによって鼻涙管閉塞が治るわけではありません。炎症が治まったとしても、根本的な鼻涙管の詰まりが取れた訳ではありませんので、涙目や目やにといった慢性涙囊炎の症状は続きます。この慢性涙囊炎を治すには、外科的な処置(図2の①や②)が必要です。本院では、涙囊鼻腔吻合術(DCR)を行う際、鼻の中から手術を行う鼻内法を行っています。従来の顔を切って手術する鼻外法に比べ、顔に傷が残らないので喜ばれています。涙小管閉塞は主に①の治療を行います。

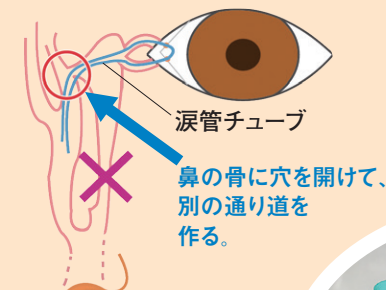
図2

① 涙道内視鏡下  
涙管チューブ挿入術

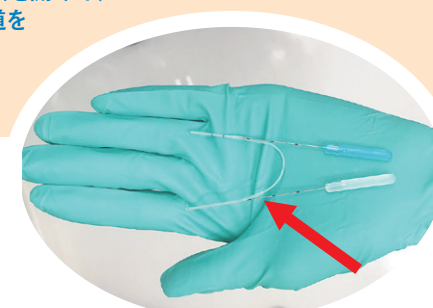
涙道内視鏡という機器を使用し、涙点から鼻涙管まで太さ1mmほどのチューブを挿入し、詰まっているところを拡張させます。低侵襲であり、局所麻酔での処置が可能です。チューブは2ヶ月ほど挿入したままにし、その後抜去します。

② 涙囊鼻腔吻合術  
(DCR)

鼻の骨を削り、涙囊と鼻の中を繋ぐバイパスを作る手術で、全身麻酔で行います。再閉塞の可能性は5%未満です。チューブは2ヶ月ほど挿入したままにし、その後抜去します。



手術の様子(DCR)



手術に使用するチューブ

## 注目

本院の眼科と耳鼻咽喉科は密な連携を取っています。DCRに支障となる鼻中隔彎曲症や副鼻腔炎がある場合、眼科と耳鼻咽喉科の手術を同時に行うことが可能です。